

グループ DBAPs の活動内容

1.目的

DBAPs の活動目的としては公園を綺麗にすることです。これをすることによって公園の利用者が多くなります。そして公園をみんなの憩いの場にしたいと活動をしてきました。

2.活動内容

中舞鶴の掃除と偵察

まず舞鶴の公園の現状を調べるために近くの公園を偵察しに行きました。

中舞鶴の道の掃除をしつつ公園へ向かうと、お菓子のゴミや空き缶、紙袋が捨ててありました



汽車公園

中舞鶴の公園の偵察をしてみると、みんな大好き汽車公園があって汽車公園をみんなの憩いの場にしたいと考えました。ここから汽車公園をどのように憩いの場にしていけるかを考えました。

憩いの場にする案としては

・ゴミを減らす ・車を綺麗にする ・ヘッドマークをつける がありました。

一つ目のゴミを減らすは人が来なくなる工夫として必要だと考えたのでポスターを設置しようということ考えたのですが、ポスターでポイ捨てをしなくなるというポスターを作れなくて、時間の無駄だったので却下になりました。

二つ目の車を綺麗にするのはグループ内に車に詳しい人がおり、車を掃除したいと発言していたので掃除することになりました。

三つ目のヘッドマークは二つ目の車に詳しい人がやりたいと言っていてやるつもりだったのですが最終的には時間が足りず、できませんでした。

消去法でいくと二つ目の車を綺麗にするになりました。車を綺麗にするには市役所への問い合わせが必須だと考えました。だから市役所に電話で汽車公園を掃除していいかの問い合わせを行いました。すると市役所の方は「汽車公園の掃除方法とDBAPsの汽車公園への思いを市役所に来て教えて欲しい」と伝えてくださったので汽車公園の車の掃除方法について調べることにしました。手っ取り早く知りたかったので車について詳しい汽車博物館の人に電話を3回ほどかけてみたところすぐに掃除方法がわかりました。方法としては雑巾で優しく拭いたり、ガソリンスタンドからもらえる廃棄オイル？みたいなもので赤錆を落とすなどのアイデアをもらえました。

ですが廃棄オイルは子供が扱っていいのかわからなかったし危険かも知れなかったので結局は使いませんでした

市役所へ行く

掃除方法がわかったので市役所に行きました。市役所の土木課というところの代表の方とお話をさせてもらえました。掃除方法を伝えて自分たちの汽車公園への思いを伝えると代表の方から掃除の許可がありました！

余談なのですが僕は市役所に行く前日にすごく緊張していて、たくさんのパターンに備えてセリフを作っていたのですが、思ったよりも市役所の方は堅くなくて安心しました。作っていたセリフも結局は使わなくてよかったです。

許可が降りた

許可が降りたので早速準備をしていきます。土木課の方に公園使用申請書みたいなものを出して欲しいと言われたのでそれを書いて市役所へ再度行って提出してきました。そして道具のぞうきんやバケツを揃えました！

掃除に行く

汽車公園へ掃除に行きました(僕はその日休んでいて行けませんでした)
雑巾で必死に擦って赤錆や埃を落としました。雑巾が真っ黒になるほど擦りました



活動を通して

僕はこの活動をして良かったと思います。市役所に行ったり電話したりという貴重な体験ができた、昔毎日のように遊んでいた汽車公園を綺麗にすることができました。それは人生の中で和田クエストという授業がなかったらやってみたくも思わなかっただろうしやらなかったと思います。ですが和田クエのおかげでそういう経験を積めて楽しかったし嬉しかったです。汽車公園を綺麗にして利用者が増えたかどうかはわからないけども少なくとも汽車公園に来た人が綺麗になったな〜とか思ってくれたらやった甲斐があったし昔の汽車のようなきれいな姿を来た人に見せられるのは汽車公園に興味を持ってもらえるチャンスじゃないかと思うのでこれを機に汽車公園に興味を持ってもらって汽車公園の汽車の凄さについて知ってもらえると嬉しいです。

今回の活動にて良かった点は有言実行できたことと貴重な体験をできたこと案を出せられたことです。よくなかった点は汽車に詳しい人1人に任せきりになったことと自分のしたいことが言えなかったことと学校から支給されたお金を有効活用できなかったことです。よくなかったことを改善するとすれば汽車に詳しい人と一緒に行動して情報を伝えてもらうこととするこの優先順位を決めてそれぞれ仕事を分担することができたと思います。自分のしたいことが言えなかったのは自分のせいなので勇気を持ってグループのみんなに伝えれば良かったです。お金を有効活用できなかったのはバス代にしかお金をかけてなくて他にも冒頭にあったヘッドマークをつけられたとするとお金を使うことができたはずなのでそれをすれば良かったです。

最後にこの活動をして貴重な体験をできて学校でのいい思い出が一つ増えて嬉しかったです！

和田クエスト

和田中学校を広める

○目的

私達の地域には小学校 1 校、中学校 1 校しかありません。そのため人数が少なく他校と比べると全校生徒の人数や学級の数が大きく違います。そこで私達が過ごしている和田中学校を他校の人にもっと知ってもらいたいと考え和田中学校を広めていきたいと思いました。

○活動内容

他校に和田中学校を広めるために…どんな方法があるか話し合いました。

みんなに興味を持って知ってもらいたいと思い動画を作成しました。

～動画の内容～

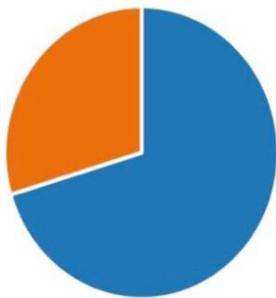
- ・各学年の様子(授業の様子)
- ・和田クエストの活動の様子
- ・学び合いの様子
- ・部活動の様子
- ・行事などを動画にまとめました。



次に学校で動画を見てもらう時間を作ってもらうために各学校の校長先生にお願いの手紙を書きました。

- ・和田クエストの取り組みについて
- ・動画を作った理由について説明しました。

そして動画を各校に配りました。見て終わりにならないように自分たちの活動に活かせるようにアンケートに答えてもらいました。



Q 動画は良かったか 青…良かった オレンジ…もっと良くなる

約 60%の人が良かったと答えてくれました。

～動画を見た感想を答えてもらう～

- ・和田中学校のイメージがもっとよくなった
- ・人数が少ない分全校との関わりが深いことに魅力を感じた

～もっと良くなるとこたえたひと～

- ・もっとアピールできると思う
- ・文字の表示時間を長くしたら良いと思う などの意見をもらいました。

○まとめ

自分達で考えたことを1から計画して和田クエストをしてきました。和田中学校を広めるということはできました。しかしアンケートを取りその改善が時間の関係ですることができませんでした。途中自分たちはなんの目的で行なっているのか目的が逸れていく事が多くて時間を無駄にしてしまうことがあったけどその度に自分達の目的をもう一度かくにんをして最後まで活動できました。他校に和田クエストの取り組みを広めることもできました。この活動をして和田中学校は人数が少ないがその分できる事が多くて和田中学校だからこそできることがあることに気づきました。もっともっというんな所へ和田中学校が広がって行けば良いなと思いました。



和田クエ

クラブチームを作るという活動をしてきた

目的 他校との交流を深めるためやいろんなことを見たり体で感じて視野を広くするため

総体でいい結果を残すため

3年生は引退してから体を動かす機会が減ったため

クラブチームを作るためには何が必要なのかも全くわからなくて最初は全然進まなかったけど校長先生や二谷先生に話を聞いてもらってアドバイスをいただいた。まずクラブ活動をするための体育館も必要になってくるし、責任者と世話係が必要と分かった。なんとなくクラブチームを作るために必要なことを理解してきた時に大きな壁が見つかった。それは責任者と世話係だ。親に責任者になれる人がいるかを探してみたけど、なかなか見つからずもう一度先生に話をしてみた。すると夜に和田中学校で活動している社会人バスケットボールチームがあるということを知った。そのため話をしてみることにした。すると心優しい対応をしてくださり責任者(コーチ)になってくれるということになった。そして第一回目の活動を終えてもう一つ課題が見つかった。それは最初に言っていた『世話係』だ。活動中に怪我をしてしまった時に連絡を取れる人がいないと困ってしまうし、保険にも加入しておかないと活動は難しいということになった。そのためもう一度考えてみた結果学習発表祭で発表をすることになったため、ポスターを作り責任者になってくれる人を探してみることにした。今も探しています 🙄

メンバーは今のところ和田でしか募集はしていないけど、詳細などを書いた紙をバスケ部のメンバーに配った

気づいたこと

迷わずに思ったことやしたいことはすぐに行動に移すことが大切。悩んでいても何も進まないからまず動くことが必要



和田クエスト

目的…舞鶴の特産物を広めよう。

自分たちは最初にコーヒーの作り方をメーテルコーヒーさんの元で学びました。



コーヒーの味はどれも一緒だと思っていたけれど作り方によっては甘くなったり苦くなったりすることが分かってびっくりしました。

その後に学習発表祭にだすスイーツを作りました。

クッキーとフロランタンを作りなんと6時まで時間がかかりとても大変な作業でした。

けど大変なだけあって味はとても美味しく大成功でした。

その後もいろんな先生たちにコーヒーやお菓子を配っていきどれも美味しかったと感想をもらったので嬉しかったです。

また、自分たちは接客などもしてコミュカや集中力など様々な力を身に付けることができこれらの力を活かしてこれから様々なことに活かしていきたいと思ったし、この経験を機に様々なスイーツを作りたいと思った。



和田クエスト

OIO

〈目的〉

私たちのグループは、和田中学校についてあまり知られていないと考え、和田中学校をもっと知ってもらいたいと思い、『和田中学校をたくさんの人に知ってもらおう』という目的にしました。そこで、私たちは歌詞付きの動画を使って和田中学校を広める事にしました。

〈活動〉

まず初めに、和田中学校を広めるために iMovie を使って動画を作りました。動画を作るために学校の校舎や各クラスの授業の様子や学び愛、部活動などさまざまな写真を集めました。

次に、作った動画を各中学校に見てもらうために、各学校の校長先生に手紙を書きました。手紙には、自分たちが今何をしているのか、なんでこのようなことをしようと思ったか、どう協力して欲しいかも書きました。その時に、動画を見ての感想を知るために、アンケートにも協力してもらえるようにしました。

敬老会では和田中学校の様子や各学年の授業や学校行事の様子を動画にし、流してもらいました。

また各学校には和田中学校の伝統や学校行事、学校や授業の様子を動画にしたものを見てもらい、感想やアドバイスを書いてもらいました。そしてこの感想やアドバイスをもとに動画を改善しました。

学習発表会では、和田クエストの発表をしました。今まで自分達がしてきた活動を動画作りで学んだ力を使ってスライドに工夫してまとめることが出来ました。

〈まとめ〉

和田中学校を自分達の作った動画で紹介してみて、和田中学校の伝統や学校行事について、詳しくまとめられたし他校の人にも和田中学校について少しでも知ってもらうことができたので良かったです。また、私も改めて和田中学校に魅力や伝統について知ることができたので良かったです。これからも和田クエストで学んだ力を使っていろんなことに挑戦できるようにしたいです。

自分自身のための活動

～勉強のコツを見つける～

僕がこのテーマで活動をした理由は、受験で合格するためだ。受験では1から3年生の範囲が出てくる。しかも、5教科分の。3年分の勉強範囲を覚えて、受験の緊張感の中、問題を解くというのは自分の頭じゃ無理がある。あと、僕は勉強が嫌いで勉強は3年の夏休み終わりまで勉強をなるべく避けて生きてきた。勉強をなるべくしたくないからコツを見つけて、受験に合格するという理由でこの活動をしていた。

まずしたことは、勉強を効率化するにはどうすればいいかを調べた。勉強を効率化することによって少ない時間で3年分の勉強範囲を覚えようとした。結果、効率化はできなかった。その原因は効率化のポイントを調べただけで実践しなかったと思う。このことから、行動を起こすということの重要性を思い知った。

次にしたことは、勉強をする上で大切なことを調べた。これを調べることでより勉強の質を上げることが狙ったからだ。結果、これも活かすことはできなかった。その原因は途中で挫折したことにある。最後まで貫き通す能力があれば勉強の質を上げられたのかもしれない。

その次にしたことは、海外の記事の閲覧と翻訳だ。これが僕が1番努力したことだ。まず、海外記事を閲覧した理由は日本記事にも載ってない情報があるかも、と思ったからだ。その情報を手に入れるために自力で翻訳をした。この工程で1番苦労したことは、文の翻訳だ。自分は元々英語が苦手なので1文を翻訳するのに30分ぐらいかかってしまった。時間は無限ではないので途中で翻訳を断念した。その結果として手に入れた情報は、その記事を書いている人の情報だけだった。そのようなこともあり、日本語の記事に戻った。日本の記事で得られた情報は2つある。1つ目は、勉強には適温があるということ。21～25度が適温らしい。2つ目は、休息が大事ということ。50分～1時間の間に休息が必要らしい。

この活動を通して学んだことは行動を起こすことの重要性だ。自分は行動しなかったことが多々あった。もし行動をしていたらもっと良い活動になったかもしれない。考えるだけじゃなくて行動を大切にしたい。

舞鶴を活気良くするために
～公園を綺麗にする～

このテーマで活動する前は勉強のコツを見つけるということで活動していた。しかし、良い勉強法を見つけたので新しいテーマで活動することにした。そのテーマというのが、公園を綺麗にするというものだった。この活動を通して学んだことは2つある。1つ目は、中舞鶴公園にある汽車は歴史のあるものだということ。小学校の頃よく遊んだ公園の汽車が昔活躍していたという事実にはびっくりした。2つ目は、汽車が案外汚れていたということだ。自分たちは公園を綺麗にする過程で汽車を綺麗にすることになった。その時に雑巾で汽車を拭いた。その時に使った雑巾がすごく汚れていた。



←これがその時の雑巾

雑巾が汚くなったがその分綺麗になったということなので良い気分になった。話は変わるが、自分はこの活動に途中で参加したので掃除グループがしていたゴミ拾いをしていない。でも、拾ってきたゴミを見せてもらった。そこから感じたことは意外とゴミが多いということ。ゴミが多いだ

けでなく種類も多かった。カフェオレのゴミやお菓子のゴミもあった。しかも、よくわからない機械の部品まであった。



←カフェオレ



↑よくわからない機械の部品

ゴミを見てやっぱり日常で使うものが多かった。ポイ捨ては環境に悪いので自分はしないようにしたい。

和田クエ全体を通して様々なことを学んだ。行動に移す大切さ、最後まで貫き通す大切さ、ポイ捨てされるゴミの種類、身近な公園のものの歴史。特に、行動に移す大切さと最後まで貫き通す力は、今後の人生において大切になると思う。将来の自分のためにも行動に移せるようにしていく。

Cafe スイーツ

～地域活性化のためにまちを明るくしよう～

○目的

舞鶴を活性化させ明るいまちにするには何ができるか？

→ 年々人口が減少しており、少子高齢化が進んでいることを知った。

そこでカフェを経営して少しでも舞鶴の地域活性化・発展に繋がったら良いなと考えたのが目的である。

○活動内容

初めは赤レンガで夏か秋にイベントを行う予定だった

→どんなイベントをすれば人が来るのか、イベント内容、対象の人、そのイベントに対してどのようにするのか等を話し合った。また何を販売するのか考えた結果、スイーツ・ドリンクを販売する事に決定。どんなスイーツを作るのか案を出し合い、試作として「マスカットのカップミルクフィユ」(右斜め上にある写真)を実際に作ったが、思っていたものとは違いあまり好みの味にならず売れそうに無いとグループで話し合った結果断念。



やはり販売するとなったらお金が必要

→お金を貯める方法をワールドカフェで他学年からアドバイスを貰ったが、企画書を先生に提出しお金の心配は無くなった。



この頃大滝さんが本校に来校しその時にお話をさせていただく場面があり、大滝さんの話を聞いていると「FLAT+」という所で1日限定カフェを開けるという事を知り大滝さんに電話をした結果協力していただけることになった。

そして9月21日の和田クエの時にカフェで販売して舞鶴を地域活性化させることを実現するという事に決まり、新たな活動へと切り替わった。

そこでまず、販売するケーキとドリンクを決めることになった。ケーキはガトーショコラに決まり、試作することになったが、焼いた後はとても膨らんでいたのがしぼんでしまい表面に穴がポツポツとできてしまった。そして9月26日に「KAN,MA」さんへフィールドワークとして行き、質問に答えていただく形になった。そこでカフェを開店する上で意識しないといけない事を聞いた。例えば接客の時に意識する事、スイーツとドリンクの値段設定、店内装飾やケーキの保管方法などを聞いた。そのおかげで実際のカフェ開店の時に役立った。前日では買い出しや実際にカップケーキを作ったり、店内装飾をしたりした。

いよいよ開店日の10月22日になった。初めは店内案内を行っていたが食べ終わった方にはお支払いを担当する人が必要になったため、お支払い担当になった。開店時間が、午後1時～5時までの時間で目標人数が50人だったが思っていたより多くの人に来て肝を潰すような金額だった。アンケートにも参加して貰った。見てみると高評価が沢山あってカフェを開店して良かったなと思え、舞鶴の地域活性化に貢献できたと思う。元々は予定していなかったテイクアウトもする事になった。私は注文を受けてコーヒーができれば注文した方に直接お渡ししたり、その場でお会計をしたりと多忙で大変だったけど臨機応変

に対応することができたし接客業の大変さや、大切なポイントなど様々なことが学べて良い機会になった。早くから来て頂いていたのに待たせてしまって申し訳ない気持ちもあったが、笑顔を忘れずに接客できた。

当日が10月22日でハロウィンに近かったのでメニュー表をハロウィン仕様に仕上げ、当日設置していた看板は人目に留まるように工夫を凝らした。

メニューは「MAIZURU set」と「WADA set」の2つをそれぞれ25個ずつ販売予定だったがそれ以上売れたと思う。「MAIZURU set」ではふわふわ抹茶シフォンケーキとドリンクを3つの中から選択してもらい、「WADA set」ではいちごのジャム入りカップケーキを2個セットにして、ドリンクは先程と同じように選択してもらった。(ドリンクはメニュー表に記載)



【メニュー表】

「MAIZURU set」、「WADA set」



menu



MAIZURU set

ふわふわ抹茶シフォンケーキ
コーヒー or オレンジジュース or ミツ矢サイダー

¥500

WADA set

いちごのジャム入りカップケーキ 2個
コーヒー or オレンジジュース or ミツ矢サイダー

¥500

抹茶：流々亭さんのものを使用

学生さんは学割として¥300



カフェは無事に終わり当日の振り返りと当日までの振り返りを書き出した。そこで出た意見をもとに和田クエの中間発表に向けて資料を作った。①活動の目的と内容 ②活動内容(具体的) ③大滝さんと関わって ④利点と反省点の様にプレゼンを行った。

○感想

活動期間が約半年という長いようで短かった。途中で活動内容が変わったりしたけど何のために活動しているのかを改めて考えた時、どんな事をすれば舞鶴を地域活性化にできるのか意見を出し合い、結果カフェを開店できたので改めて考え直す事の重要さを知ることができた。また、カフェを開店して新たな力を身につくことができたし、和田クエは学校生活の中で行える貴重な体験であり時間だった。

和田クエスト

僕たちはゼリーを作って和田中の人に食べてもらうという目的で活動してきました。まずはゼリーで使うフルーツはスイカに決めました。だから荒川種苗さんに電話をし、スイカの苗とプランターを買いに行きました。



2~3週間後になると、葉っぱも増えて茎も伸びて大きくなっていったので、支柱を立てて支えました。花ができたので受粉させ、3~4週間後には実ができ、

日に日に大きくなりました。一ヶ月後には花も多くできてきて、成功できると思っていました。しかし

そこから実が大きくなることはなく最終的に腐ってしまいました。

スイカが失敗したのが10月だったので時期も考えて次はキウイゼリーを作りました。キウイゼリーは水の量が多く固まらず失敗しました。僕たちのグループは失敗ばかりでしたが、和田クエストを通して課題発見力や計画力、フィールドワークで規律性が身についたと思います。



まいっちゃ 

<舞鶴の特産物に海軍コーヒーが!?!>

目的

・舞鶴の特産物を広める(全国へ…)

内容

まず、舞鶴の特産物について調べた。舞鶴の特産物には海軍コーヒーという戦争があった時からあるコーヒーがあることを知った。私たちはそれを広めようと思った。そこで、海軍コーヒーを売っている Metel 珈琲さんの所へ話を聞きに行った。Metel 珈琲さんでは、コーヒーの入れ方や海軍コーヒーについて詳しく教えてもらった。 →



その後、海軍コーヒーとコーヒーにあうスイーツを何かしらで売って広めようと考えた。私たちはコーヒーにあうスイーツの開発を始めた。最初は自分たちが食べたいスイーツをだし、ロールケーキ・バームクーヘン・シュークリームを作ってみようと思った。3 つとも作った結果、形が上手く行かなかったり売り物にするにはほど遠いと思った。



開発してる間に、11 月 2 日にある学習発表祭で親に売ることに決まった。まずは身近な人に知ってもらおうと考えた。親には海軍コーヒーとスイーツのセットで売ることになった。そこで、スイーツの課題やお金などの課題がたくさん見つかった。最初はロールケーキ・バームクーヘン・シュークリームの中から売ろうと思っていたが、生物の管理や保健所が大きく関わってくることから諦めることにし、焼き菓子にしようと思った。焼き菓子には、クッキーとフロランタンを作りコーヒーとセットにして売ることにした。11 月 2 日にはクッキーとフロランタン・コーヒーセットを売り、身近な人には広めることができた。

その後、校長先生からの依頼で全国から来る先生方に海軍コーヒーを提供してくれないかという依頼を受けた。およそ、100 名ぐらいの先生方に海軍コーヒーを知ってもらうことができた。

まとめ

私も知らなかった海軍コーヒーについて自分も知ることができて良かった。また、スイーツの開発も楽しかったし、何より海軍コーヒーを売り接客の大事さや売る大変さも知ることができた。先生方やたくさんの人に好評してもらいこの活動をしてよかったと思った。でも、学校と全国の先生方に売っただけで、まだ知らない人もたくさんいるからカフェを開ければ良かったなと思った。

和田クエを通して、身についた力もあるし大切なこともたくさん知れたからよかったと思う。



もし、海軍コーヒーに興味があれば飲んでみてください！

和田クエ

私は幼い頃、どちらかというリーダータイプではなかった気がします。今はリーダーをしたい、役割を持ちたいという気持ちが強いです。そこが今回の活動の結果に繋がったと思います。

1、2年生の時の和田クエは考えて終わりでやっている感はなかったです。今回の3年生の和田クエでは、電話したり報告したり買い物をしたりと行動をする事が多かったです。私にとってそれは楽しいものでもあったし、手間になることもありました。全てひっくるめてみて経験できたと思いますし、活動の機会を与えてくれた和田中に感謝だと思っています。

去年の3年生でケーキの販売をしているグループがいて、私自身がそのコンテンツに興味がありました。スイーツは好きだし、去年夕方まで学校に残って作っていたのを知っていたので余計に良いなと思いました。また私はスイーツ作りよりもその他の実際売ること、細々としたことに興味がありました。何より舞鶴の活性化に繋がる事、それが1番しようと思う事でした。

1学期の活動では『曖昧』が目立ちました。何を考えてもすぐ終わってしまう事が課題で、結局どの方向に行けば分からなかったですし、試作は失敗してとにかく曖昧な活動になってしまいました。

2学期に活動は急に進みました。きっかけは大滝さんとの交流で、8月に話し合ってもらって、『カフェで販売する』という明確な目標とゴールが出来ました。あとはそこに向かって計画を立て、こなしていただけでした。

私達はまずスイーツの決定を考えることにしました。ガトーショコラにして試作を重ねましたが結局上手いかなくて、私がふわふわが良いと言って、シフォンケーキになりました。カップケーキは美味しそうなお事と3年生が作ったものでもあって採用させていただきました。

下見にも行って、電話もして、原価の出し方も知って金額も決めて、メニューを作って、カンマさんに訪問させて頂いて、そんなこっただけ時は流れました。

本番近くになって今までの日々を振り返ってみると、みんなに指示を出す時とかあれでよかったのかなとかお金足りているのかなとか、みんなでアイデア出し合った時楽しかったとか色々考えました。特に思い出に残っていることがあって、それは企画書の事です。初めて金子先生に出した時に出した時にやり直しをくらった事です。書き方がわからなかったけど『お金の世界はシビアやで』って言われて頑張って書いたのが思い出です。最後の企画書ではすごく多めに援助して頂いてありがたかったです。

私達はお客さんの人数の目標を30人にしていましたが、やっぱり50人にしてみました。各々声をかけて目標達成に向けて頑張りました。

前日準備の時、みんなで暖かい空間で準備して楽しかったです。

当日は忙しくて、たくさん来ていただいて嬉しかったけれど、長時間待たせてしまって、悪かったなと思う点が多かったです。またオーダーの書き方が違ったりして困ったりもしました。でもその分多くのことを学びました。

みんなで協力して一つを成し遂げるっていう経験がすごく楽しくてその魅力に気付けたのが良かったです。また、沢山の人の力を借りました。人に感謝することの大切さも知れてやって良かったです。

和田クエスト

掃除屋

「僕たちはどんなグループなのか」

僕は掃除屋というグループで活動していた。このグループでは主に**京都府の清掃**というテーマで活動していた。きっかけは京都を有名にしたいという願望がありどうやってできるかとなった時清掃などをして街にして「京都は歴史的建造物だけでなく街の清潔さも大切にしている街なんだ」と思ってもらうことで有名にできるんじゃないかと感じたからだ

「今までの清掃活動」

僕たちは清掃に向けて清掃するところの絞り込みをした。

このように掃除する地域の特徴やこれから清掃するところしぼりこんだ結果最終的に京都市へ行くことになった→

掃除する地域の絞り込み

- ・ 近いところ
- ・ 人盛りがあるところ
- ・ 都会
- ・ 自動販売機が多いところ
- ・ 最終的に京都市へ行く

僕たちは中舞鶴「東西も含む」綾部 福知山 京都市の順に清掃活動を行なった。

「中舞鶴 東西 綾部 福知山」

「成果」

初めての清掃だったがどこにゴミがあるのかどこが多いのかなどをリサーチしながら清掃することができた。東西では缶やペットボトルなどのゴミが多かったと感じた綾部 福知山は清掃がされておりゴミがあまりなかった。どの場所もキレイにすることができた



「課題」

初めてだったので時間配分ができていなく早めに終わってしまった。駅の周辺を清掃したが駅の関係者の人に許可を取るのが遅くなってしまった。

自販機の隅のゴミは取りづらくその辺りを考えれていなかった

「京都市の清掃」

交通費が降りたことで京都市へ清掃しに行くことができました！

前回の反省を活かして時間配分や持っていく道具などを調整した



「成果」

初めて京都市の清掃を行ったがしっかり清掃することができた

見えづらいところも徹底してゴミ拾いをした

自販機にゴミが多いとわかった

「課題」

舞鶴とは違い京都市は広く迷うのを恐れてあまり広範囲を清掃することができなかった

予定はうまくいったが 移動が遅く時間がずれてしまった

「清掃から学んだこと」

舞鶴 綾部 福知山 京都市での清掃からポイ捨ては街の雰囲気悪くしてしまい同時に環境も脅かしてしまう危険な行為だとわかった。このような体験からポイ捨てはしてはいけないことでポイ捨てをしている人を止めなければならぬとゆうことをひろめていきたいなとおもった

「ポイ捨てなどを止めるためには？」

清掃などをしてポイ捨てはやめるべきだとわかった。ポイ捨てをやめてもらうにはポイ捨ての危険性やそのゴミを拾っているボランティアの方々の想いをもっと広めていかなければいけないと思った。止めるには「おもいを広める」ことを大切にすべきだと感じた

国際交流を通して

きっかけ

外国語が好き・興味がある、将来、英語の教師になりたいという思いから国際交流を行った。「自分がやりたい事を探求する」という思いでこの活動を行うことができた。

1学期には市役所に行き舞鶴市が行っている国際交流について話を聞いた。その際、職員の方が言われた、「タブレットなどを使って、交流する事は可能ですよ」そんな言葉が私達が行った交流が加速していったと思う。

交流①

9月には韓国の中학생と交流を行った。韓国語で学校紹介等のスライドを作り、韓国語で和田クエストの説明の練習をしたり、入念に準備を行ったりした。実際、交流は円滑に行う事ができた。韓国の学校に日本語が出来る方が居たり、生徒も少し日本語が分かったりという点からより楽しく会話をする事が出来た。

交流②

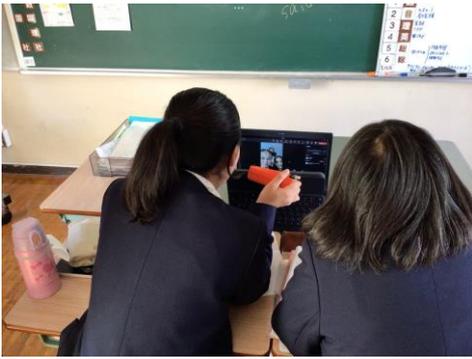
10月にはウズベキスタンの同年代の学生と交流を行った。主に英語で交流をする、通訳の方がいるという事から結構、スムーズに交流が行えると考えていた。しかし、ウズベキスタンの学生の英語力にはかなり圧倒された。圧倒されながらも、学校や制服を紹介したり自分達が知っている英語で会話をしたりする事が出来た。

交流①を経て

韓国との交流を一言で言うと「楽しかった」この言葉に尽くと思う。私は以前、韓国語を勉強していたという事から全く会話が出来ないという事はないだろうと思っていた。交流中は話すことで夢中だったが自分が思っていた以上に韓国語で会話が出来ていた。学校紹介などは用意していた言葉を読み、通訳の方に少々お世話になったのだが、後半は画面から通訳の方がいなくなる程、自分の韓国語で会話する事ができた。それが今回の楽しかった事であり、成果だと思う。長期間勉強していた訳でもないが今までの積み重ねがそのような良い形で感じた事でより言語の楽しさと少し勉強してみようかなという気持ちが芽生えた。また、この交流で韓国の中学生在私達日本人が思っている以上に、日本語や文化など色々な事に興味を持っていてくれて嬉しかった。



交流②を経て



ウズベキスタンとの交流も一言で表すならば「力不足」というのを感じた。前半の方にも書いたよう、ウズベキスタンの学生の英語力に圧倒された。私は英語が好きだしなんとかなるだろうという風に考えていた。いざ始まると、接続が悪いのもあったり、単純に英単語が分からなかったりしてあまり上手く会話する事が出来なかった。それなりに会話が出来ようという自信が見事に粉碎され、かなりやりがいを感じられない交流になった。自分が言いたい事をきちんと言えたと思っていても相手が理解出来ていなかったり、逆に私が聞き取れなかったり、英語のどのような分野においても上手にすることができなかった。それがこの交流の

反省点であるが英語の学習のモチベーションにする事が出来ている。

国際交流を経て

本来ならこのように話すような機会がないような海外の学生と交流ができた事は大きな経験になったと思う。

韓国とウズベキスタンどちらの学生とも Instagram のアカウントを交換し、今でも DM をするなど関わりを持つ事が出来ている。頻繁に会話をする訳ではないが海外に知り合いがいるという事実がとても誇りに感じる。

お互いの母国語ではない英語で会話をするなど言葉の意味、言語の存在力をとても感じた。市役所の方が広報まいづるにも書かれたよう英語が好きかどうか、話せるかどうかで自分の人生を大きく変えるのではないかなと考えた。

舞鶴のイメージ change と海軍コーヒー ～舞鶴の特産物を世界に～

『きっかけ』

僕たちが住んでいる舞鶴には沢山の特産物がある。しかし、僕などはあまり舞鶴の特産物や良さという歴史があるのか曖昧な状態だった。京のブランド産品である「万願寺甘とう」をはじめ、宇治茶の産地の一つでもある舞鶴市で盛んに栽培されている「舞鶴茶」、海軍の教科書にも載っている海軍コーヒーがある。魅力のある舞鶴のイメージ変え、特産物を広めようと考えた。そうして、あまり知られてない海軍コーヒーとそれに合うスイーツ作りを考え行動して行った。

『実現のため』

まず、海軍コーヒー豆を売ってある metel 珈琲さんにインタビューをして特徴や合うスイーツについて聞き、作り方などを学んだ。その時に、珈琲にあうスイーツを聞くとクッキーやロールケーキバームクーヘン、シュークリームなどとアドバイスを貰ったので作る事にした。

材料の購入や作り方などを調べ、約6時間をかけてスイーツ作りをし、試作を試してみた。感想としては生地がしっかりしていて予想していた味より遥かに美味しかった。

しかし、ロールケーキやシュークリームなどは販売するにあたってほど遠く、冷蔵庫で保存して売る場合には、クッキーとフロランタンが可能だと判断した。



『カフェでの販売』

11月2日学校で行う学習発表祭で身近な人に知ってもらうためにカフェを開いた。前日に60人程度をめどに冷蔵庫で保存できるクッキーとフロランタンを作った。忙しかったが予定を決めてしっかりと準備出来て良かった。また metel 珈琲さんに協力を電話でお願いした。

当日を迎え、海軍コーヒーを入れる準備して下さっていて、お菓子とコーヒーを渡す接客係として担当した。販売する際にはセルフ形式のような手渡し方式で臨機応変に対応して、販売する事ができた。また、事前に紙やチラシなどで宣伝したおかげでより多く保護者や他地域から来たお客さんなどに海軍コーヒーを知ってもらう事ができた。

最終的に60人分、僕たちが用意した分を全て完売する事を達成出来き、本当に良かったと感じた。

『最後に』

僕たちの活動を振り返って、時間の少ない中いろいろな体験ができたと思う。また、僕たちがやってきた事は活かされると思う。

地元である舞鶴の特産物を知ってもらうため計画を立て行動する事で計画性が付いたと思う。metel 珈琲さんと関わり海軍コーヒーを知ってもらう活動を知る事で発信力や実行力が向上したと感じている。

1 から自分で考えて実行するというのが和田クエの良さだと思う。
この貴重な体験や対応力を来年の高校生活が始まるので、活かせるようにしたい。

和田クエスト

チーム名【掃除屋】

【テーマ】京都府の清掃とPR

【目的】

京都府は歴史的な町だという印象があるが、綺麗な町だという印象をつけて、もっと京都府が好印象な町にしたかったから。

【活動内容】

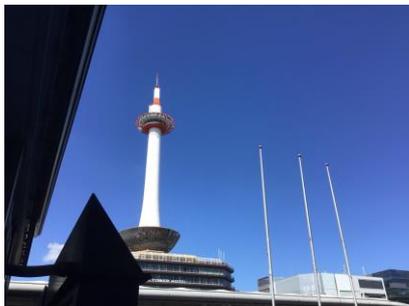
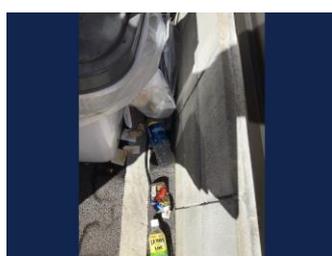
- ・清掃がメインなため、まずは一番近い舞鶴から掃除することにした。
- ・東舞鶴はタバコのゴミやペットボトルのゴミが多かった印象。
- ・西舞鶴は東舞鶴に比べて比較的ゴミが少なかった印象だった。



夏休みには、綾部市、福知山市へ行くことができた。綾部市は舞鶴に比べてゴミが少ないと感じ、綺麗な街だと思った。福知山市はペットボトルや缶のゴミがとても多かった。

9月には、学校からお金の許可が降りたため、京都市へ行くことができた。京都市は観光客が多いため、ゴミが多いと思っていた。だが駅に着いてから掃除しようと思ったら、ゴミがあまりなかった。それどころか東舞鶴よりゴミが少なかった。だが、人があまりいない裏路のところには、缶のゴミやペットボトルゴミでいっぱいだった。結果舞鶴よりも綾部、福知山よりもゴミが多いと感じた。

京都市は観光客がいっぱいで賑わっているところは綺麗だが、目の届きにくいところはゴミが多かったから、京都市の歴史的な町というイメージが少し変わった。



掃除が一通り終わったため、PR 活動へ移った。

PR 活動をするためにどうしたら良いか分からなかったため、京都府の観光大使に話を聞いた。観光大使の平田進也さんからは、今後の活動、PR とはなんなのか、ゴミを拾う人が増えるためにどうするか、自分達の活動を広めるためにどうするかなど、アドバイスをもらった。

【活動を通して】

清掃活動を通してポイ捨ての危険性や、ゴミを拾ってくれるボランティアの方々が、とても大変な活動だと分かった。舞鶴は掃除した中で二番目ぐらいに汚かったから、自分の住んでいる街が汚いのは、ショックだった。綾部、福知山は主に駅周辺を掃除していたが、どちらも舞鶴よりゴミが少なかった。とくに綾部は1時間近く歩き回っても、ゴミが5、6個ぐらいしかなかった。京都市は観光客が賑わうところにはゴミが少なかったが、人通りの少ない場所では、ゴミが大量にあった。歴史的な古き良き京都の街というイメージが崩れてしまったからショックだった。

PR 活動については、京都府観光大使の平田進也さんから話を聞いた。自分達の活動についてアドバイスをもらったり、京都府のオススメの場所やゴミを拾う人を増やすためどうすれば良いかのアドバイスももらったりした。平田さんの話で、自分達の活動をどうするか、また新たな目標が決まると、とても貴重で参考になる話だった。

和田クエ活動は終わりだが、ゴミ拾いの活動は、高校へ行ったときにも、まだ続けたいと思う。そして自分達の活動も広めていきたい。

和田クエスト

目的

どうやってゼリーを作るのかを考えた。
ゼリーを作ろうと思ったかは、お世話になっている先生たちにあげようという目的。



内容

先生たちにあげようとしてきた事。

一つ目は季節にあった果物を探した。なぜ果物でゼリーを作ろうとしたかというと、夏だしたくさんの果物があったからです。そして自分達はスイカでゼリーを作ろうと言う事になったので荒川種苗さんに電話をかけて、苗 植木鉢 スイカの苗を買いに行きました。買った物 7月10日に植えることにしました。そこから一カ月ぐらい経って実が出てきて来ました。

しかしちょっとまあ様子を見ているとアリに実食べられたり日光にあたっていなかったのので、失敗してしまい断念した。しかし自分たちは諦めずに秋の果物でゼリーを作ることにして、キウイで作ることにしました。なので、キウイ ゼラチン ポッカレモンドを買いゼリーを作っていたけど水の入れ過ぎで固まらず失敗してしまいました。

成果

このように、自分たちの活動は、失敗ばかりだった。やっぱり人に何かをするって言う事は難しいと思った。また、失敗ばかりだったけどたくさんのが学べたからよかった。



舞鶴活性化に向けて

THE 舞鶴

1. 目的

現在、舞鶴には様々な課題が存在する。その一つに人口減少がある。私たちはこの人口減少という部分に着目し、人口減少を食い止め活性化を取り戻すことを目標とし活動を始めた。

2. 活動内容

舞鶴を活性化するために何をすれば良いのか。私たちは様々な議論を通し、舞鶴のあまり知られていないスポットのポスターを作成することにした。あまり知られていないスポットにしたのは理由がある。赤レンガなどの舞鶴のシンボルのようなものはすでに、ポスター、ホームページなどで紹介されており、これを紹介しても舞鶴の良さが伝わりきらないと思ったからだ。そこであまり知られていない舞鶴の穴場スポットを紹介し、舞鶴に住んでいる人でも知らない舞鶴の良さを知ってもらおうと考えた。

1回目のポスター作成では和田中付近にある幽斎ゆかりの島を訪れ、手書きでポスターにした。(図1)はその時に作成したものである。ポスターを見た人が数人ここに訪れてくださった、この土地の持ち主の方に喜んでもらえた…などの成果を出せた。

2回目では白浜台の奥の方にある公園を訪れて、ポスターにした。(図2)がそのとき作成したポスターである。2回目はデジタルでのポスター作成にチャレンジし、より正確でみやすいポスターにできた。



3. 課題

課題としてあげられるのは、ポスターを貼る範囲が狭かった事である。時間などの関係で中舞鶴地域にしかポスターを貼る事ができなかった。またこのように活動する機会があればこの反省をいかし、もっと穴場スポットを広めるにはどうしたらいいか考えていきたい。

4. 活動を終えて

この活動を通して、私には考える力がついた。いろんな課題とぶつかり、悩んだこともあったが限られた時間で2枚もポスターを作成する事ができたのは大きな成果だと思う。私たちのポスターを通して少しでも舞鶴の素晴らしさに気づいてもらえたらいいなと思う。



舞鶴の特産物を世界に広めるために

自分たちは舞鶴の課題である少子高齢化を解決するために舞鶴の特産物を世界に広めることにした。そこで舞鶴の海軍コーヒーに注目し、自分たちはコーヒーに合うスイーツの作成、販売に取り組むことにした。



① 販売に向けて

海軍コーヒーに合うスイーツは何か考え、まず最初に思いついたのがシュークリームやロールケーキが思いついた。実際に作ってみて、シュークリームやロールケーキがメインとなり、海軍コーヒーの存在が薄れてしまい、自分たちの目的に合わなかった。また、販売するとなると、牛乳や生クリームを使っているので作り置きがしにくいスイーツは販売しにくいと思い、クッキーとフロランタンにした焼き菓子は作り置きができ日持ちするのでピッタリだと思った。



② 実際に販売

販売をしてみてコーヒーとクッキーそしてフロランタンのセットで売ることにした。販売をしてみて、60個以上を売ることができた。でも人手が足りず途中、慌ててしまった。「美味しい」と言ってもらえてやりがいがあった。

③ まとめ

販売からお菓子の研究の大変さや難しさを知り、協力し合って、「美味しい」と言ってもらうことができた。



バスケットクラブチーム

目的

作った目的は、他校との交流を増やすため。
また、自分たち3年生は、部活を引退して高校に入るまでの期間バスケットをする機会が減るのでこのクラブチームをつくってバスケットをする時間を増やしてバスケットを上手くなるために作りました。

活動内容

僕たちは、クラブチームを作るために責任者、世話係、保険、体育館の確保の4つのことが必要になってきました。

体育館は、校長先生や教頭先生に体育館は、使えるか聞いたりしたらすぐに使っていていいよと許可が出たのですぐに体育館のことは、解決できたのでここまでは、スムーズに進めれました。スポーツをする上で保険が大事になってきました。自分たちだけでは、どこの保険に入ったらいいのかわからなかったのが元和田中学校校長の岡田先生にどこの保険に入ったらいいのか電話で聞いたりしました。スポーツ保険に入ったらいいと言われてスポーツ保険に入ることにしました。長い期間保険について迷っていたのでもっと早い段階で電話をしたらいいなと思いました。そして、メンバー集めはバスケット部にクラブチームに入ってくれないかと聞いて入りたいと言った人にクラブチームに入ってもらうことになりました。バスケット部のほとんどが入ってくれてメンバー不足などはないので良かったです。責任者(練習を見てくれる方)は和田中学校の体育館で社会人バスケットをしている西村さんに声をかけて快く指導者としてしてくれるようになりました。世話係は、自分たちの親にってもらうことにしました。実際にクラブチームとして活動して西村さんに指導してもらいました。西村さんの練習は、基礎的な練習が多くてしんどい練習だけどみんなで盛り上げて約1時間30分の練習を無駄にせずに練習できたと思います。

まとめ

この活動を通して自分たちのやりたかったことが実現できて良かったなと思いました。このクラブチームを作るという活動は色々な人に支えられたなと思いました。また、一番は責任者を探すのが苦労したなと思いました。西村さんに声をかけて良かったなと思いました。この活動で色々なことが学べて良かったです。

和田クエスト

目的

部活を引退して練習時間がなくなったから練習時間を増やし、他校との交流を増やしてもっと広い視野を持つためです。

内容

僕たちはまずクラブチームを作るために体育館の使用について校長先生と相談したり、メンバーを探したりしました。

体育館の使用では、水曜日に誰も使わない時間があったのでその日に借りることになりました。メンバー探しでは、最初はバスケット部に声をかけて、その後にバスケット部じゃなくても入りたい人を聞いて集めました。

そして、クラブチームを作ったけどそのあとたくさんの課題が出てきました。

1つ目はクラブチームを見てくれるコーチ(監督)がいるということです。これは夜和田中学校の体育館を使っている団体の人がいたのでその時間にコーチをやってくれる人がいないかを相談しに行きました。すると、快く西村さんという方が引き受けてくれました。

2つ目は保険に入らないといけないと言う事です。保険に入らないといけない理由はケガした時に保険に入っていないとお金がたくさんかかるからです。どの保険に入ったらいいのかは岡田先生に電話をかけて聞くと年間800円のスポーツ保険に入ったらいいと言う事がわかりました。

3つ目は西村さんと連絡をとったり、練習を見に来てくれる世話係が必要だったりという事です。世話係についてはあまり決まっていないので決めていきたいです。

僕たちは2つ目と3つ目はまだ解決できていないけど、2回活動をしました。活動をしてみて1回目の練習では、まず最初に1人ずつ自己紹介とクラブチームで頑張りたいことを言っていました。みんな最初は緊張していたけどみんなで声を出していくうちに緊張もなくなってきていたのでよかったです。2回目の練習でもみんなで声を出して雰囲気も良く楽しくできたのでよかったです。



まとめ

この活動を通して、練習では他学年の人とも関わる事ができました。また、活動している中で自分たちだけの考えで行動してしまっていたところがあったので、これを機に相手のことも考えていきたいです。

和田クエスト～活性化に向けて～

和田クエとの出会い

中学校に入り新しい授業があった。それが「和田クエスト」だった。楽しそうな難しそうな。色々なイメージがあったことも今でも覚えている。「楽しそう」という印象になったのは、1つ上の先輩方の発表を見てからだ。

小学校の時にも、「総合」の時間でいくつかの活動をしてきた。この時もだいぶ自由に考え、活動できる時間だった。しかし「和田クエ」の時間のように最初からグループに別れて活動はしていなかった。そこが大きな違いで、「和田クエ」へのイメージは大きく変わった。

1～2年生の間はグループには別れず自分と向き合う時間だった。そして本格的にグループに別れ、活動が始まったのは3年生からである。

目標

目標は「舞鶴の活性化」。この調子で過疎化や少子高齢化が進んでしまうと舞鶴全体の雰囲気も、景気も悪くなってしまったらと思った。だから少しでも舞鶴の事を知って欲しい。舞鶴は赤レンガパークだけではない事、舞鶴にはまだまだ知られていない魅力がある事を知って欲しかったからこの目標にした。「今の舞鶴を変えたい」という気持ちだった。

活動内容

私達のグループでは「穴場を紹介」し沢山の方に舞鶴を知ってもらおうとした

・街探検 ・ポスター作り ・ポスター貼り

を中心とした活動内容。街探検はポスター作りをしていくうえでとても大切な活動だった。

探検した場所の特徴や探検場合の目印、気をつけること、私達が実際に行った感想等をポスターに書く為、隅々まで調べた。



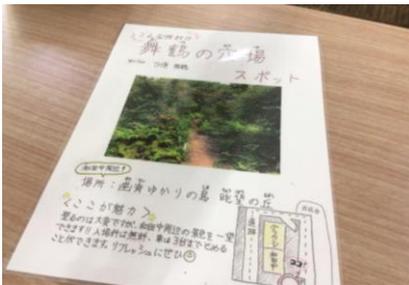
活動

グループのなかで「ポスター」なら沢山の方に知ってもらえるのは無いかな、少しでも皆さんの目に止まるのでは無いかなと思い、私たちのグループではポスター作りを始めた。始めたての時は「楽しみ」という気持ちでいっぱいだった。しかし色々な問題にぶつかっていく度々「難しい」という気持ちでいっぱいになった。ポスターの大きさ、ポスターに紹介させて頂く場所の所有者様の把握、沢山の電話 等と、けて簡単な道のりではなかった。「楽しい」という気持ちが無くなった訳では無いけれど、少し「苦だな」と感じた時もあった。

第一回目のポスターを貼り終えた後に逢ったのは小学校の時には感じられなかった「達成感」だった。私達が紹介した場所に綾部からいらしてくれた方もいると聞いた時には「来年もやりたかったな」という気持ちでいっぱいだった。そして、第二回目のポスターは第一回目と違うポスターを作ってみた。そして貼る場所も変え、全てが新しくなった。

第一回目は手書

第二回目は iPad



全てが新しく、その分難しいことも、楽しいことも、得た経験も沢山あった。

二回目のポスターを貼りに行った時には「綾部の方がこのポスターで紹介してある場所はどこだ」と尋ねに来ていたことをお店の方が教えてくれた。とても嬉しかった少しでも舞鶴の活性化に繋がった事、私達のこのポスター活動を知ってくれた事。色々な感情が込み上げ「この活動をして良かったな」と思った。

成果

私達の活動や和田校区、和田クエの活動を知ってくれた。そして私も今まで知らなかった場所や、地形等を知れた。又、沢山の人と関わった上での対応力の大切さ等を改めて感じた。

得たこと

新しい方法にチャレンジしたり、新しい場所にチャレンジしてみたり、等と色々なチャレンジをしてきた。その中で「チャレンジする事」は大切だと思った。そして、今まで「新しい事にチャレンジする事」が怖かった私もこの経験を通し、「新しい事にチャレンジする事」への恐怖心が無くなったと思う。今後は恐怖心では無くその恐怖心の後の達成感を求めて色々な「新しい事にチャレンジ」していきたいと思う。

D.B.A.P.S

目的

公園を掃除して舞鶴を活性化させる

僕たちの最初の目標は舞鶴を綺麗にし舞鶴を活性化させることでした。

そして僕たちは活動計画をかんがえました。

そこで舞鶴の活性化を目指す中で公園はとても適したところでした。

また、公園にはゴミが落ちているのではないかと考えました。

そこで僕たちは活動計画を立てました

活動内容

1 和田中学校周辺で視察する場所を決める

2 公園などを視察しに行く

3 公園の現状を写真にとる

公園にはお菓子のゴミやアイスのゴミなどが捨てられていました

4 中舞鶴にゴミ拾いをしに行く

マスクが道によく落ちていました

5 汽車公園を掃除することに

僕達は公園を綺麗にして公園に人が来てもらえるように掃除をすることにしました

6 公園を掃除するにあたって

公園を掃除するために僕たちは活動計画を考えました

7 電話

掃除をするために市役所に電話をして活動計画をたてました

また京都鉄道博物館九州鉄道記念館さんに汽車の掃除の仕方を聞きました

8 許可証を市役所に渡しに行く

公園を掃除するには公園使用許可証が必要なことがわかりました

そして市役所にて担当の方に提出をしました

また市役所で水道の使用許可証を書いて掃除を行う日程と何時間掃除をするかが決定しました

9 掃除をするにあたって

汽車の掃除の仕方

博物館や記念館の方に聞くと汽車は塗装されているので強く擦ったりブラシなどですったりすると塗装が剥がれると聞きました

だから僕たちは雑巾で水拭きをすることにしました

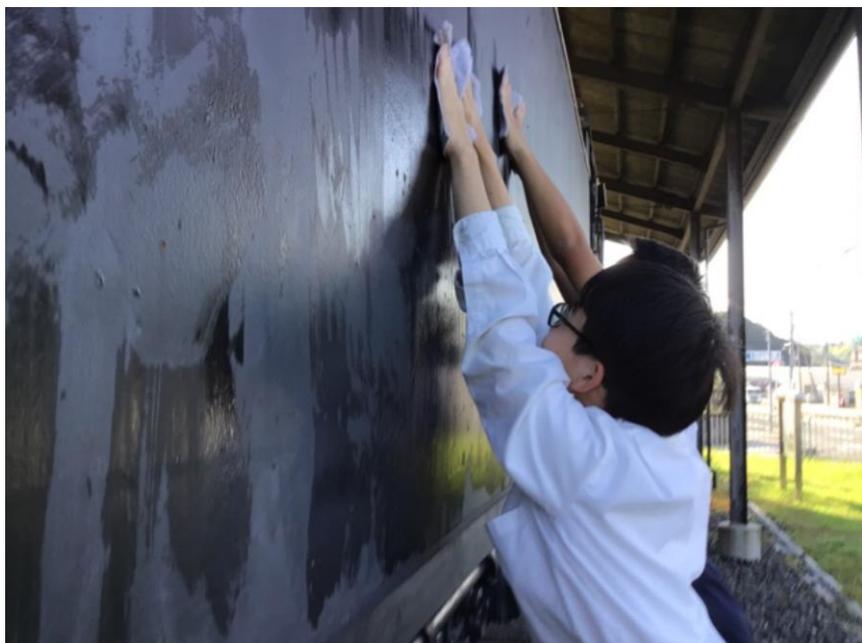
10 掃除

バケツと雑巾を持って汽車公園へ

掃除中は塗装を剥がさないように慎重に行いました。

雑巾で水拭きをしながら固まった砂を取りました。

水拭きで目立つ汚れを取りました。



11 掃除を終えて

掃除が終わった時はとても達成感がありました
学校の掃除とは違う掃除でとても苦労しました。

僕たちが行った掃除では砂や土などの
汚れしか取れませんでした。僕的には
前より綺麗になったと思います。

和田クエストを振り返って

最初の和田クエでテーマを決めた時僕は
舞鶴を活性化させるためにという事を
考えていました。

似たテーマの人とグループを組みグル
ープで舞鶴のゴミを拾い綺麗にするこ
とが目標になりました。

僕たちのグループではゴミ拾いを行っ
たりする中で公園を掃除して公園に来
る人を増やそうと考えました。

公園掃除を行うまでにいろいろな方達と
関り掃除を行いました。



感想

和田クエストの活動を行って自分は行動力がついたと思います。

和田クエストが始まった時はめんどくさいとか適当にやればいよとか思っていたけど活動していく中で次の活動は何するかの計画をしっかりと立てたり市役所の方達と関わったりして活動を行うことができたからです。

自分たちのグループではちょっとした掃除しかできませんでしたがそれでも良い活動になったと思います。

和田クエストでは仲間との協力や自分たちで計画をたてて活動するので詰まるところもあったけど最後には自分たちが第一の目標としていた公演の掃除ができてよかったです。

また和田クエでの活動はこれから生きていく中で知識として活用していこうと思いました。



カフェスイーツ

目的

少子高齢化が進んできた舞鶴を活性化させるためです。また、舞鶴の事をたくさんの人に知って欲しかったからです。

内容

カフェを開くために、売るスイーツを考えました。初めは、舞鶴で作られたマスカットを使ってパフェを作りました。でも、マスカットとパイの味が合わなかったので断念しました。次に、チョコレートとホワイトチョコの2種類のガトーショコラとオレオのチーズケーキを作りました。これも、それぞれの味が悪かったので断念しました。でも、私たちはガトーショコラを売りたいかったので「KAN,MA Dining」というカフェの方にアドバイスをもらう事にしました。カンマさんでは、値段の決め方や接客のコツ・広告の仕方などを教えてもらいました。最終的に、簡単なシフォンケーキと先輩が考えたレシピのカップケーキにしました。ハロウィンが近かったので、カフェの内装をハロウィン仕様にした。また、学校で練習する時間がなかったので、各自で家で練習しました。当日は数人の同級生に手伝ってもらいながらカフェを開く事ができました。

感想

自分たちで計画してカフェを開くのはあまり経験しない事だと思うので、貴重な体験になったなと思いました。予定よりも多く売れたので嬉しかったです。また、アドバイスをもらうためにカンマさんや中舞鶴保育所に電話をするなど大人になってから必要になる力をつける事ができたので、和田クエをやって良かったなと思いました。





和田クエが 教えてくれたこと

ーゴミ拾いと公園清掃を通してー

〈活動のきっかけ〉

- ・近年、公園の数が減ってきていて公園利用者も減っているように感じてきたから
- ・グループ(デビル ビフォーアフター パークス)のメンバーの“ゴミ拾いへの関心”が高かったから

〈活動内容〉

- ・公園の視察 …①
- ・町のゴミ拾い …②
- ・ゴミの分別 …③
- ・市役所への電話 …④
- ・京都鉄道博物館、九州鉄道記念館さんへの電話…⑤
- ・市役所訪問 …⑥
- ・公園使用届の提出…⑦
- ・汽車の掃除 …⑧



〈公園の持つ課題〉①

- ・雑草が多い
- ・遊具が破損、劣化している
- ・ゴミがたくさん落ちている

〈ゴミ拾いで得たもの〉②

公園の課題をグループで話し合いまとめた後、ゴミ拾いをすることにした。
ルートは右の地図のように西舞鶴と中舞鶴を一周するような形にした。

〈ゴミ拾いの成果〉③

ゴミ拾いの後、分別を行ったここで印象に残っている。

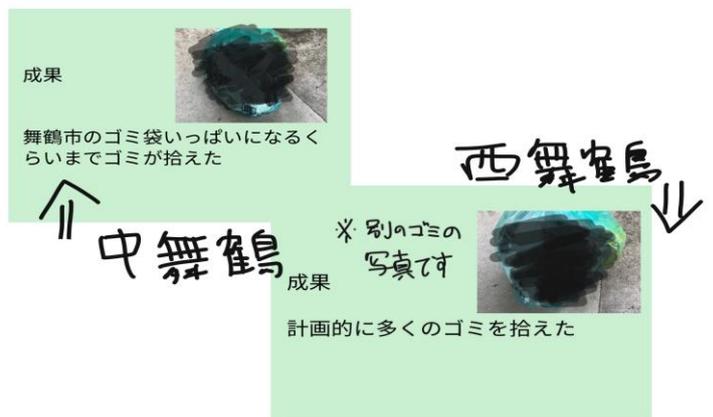
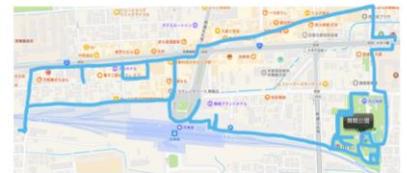
3 機械[計器と思われる]の部品
電圧計や携帯用ラジオの部品が
バラバラに入っていた。



7月 2日

ゴミ拾い [西編]

田辺城公園と商店街、
駅周辺のゴミ拾い



2 “大きな袋”

空き缶、ペットボトル、お菓子の袋が大量に入っていた長期間中舞鶴停留所に放置されていて匂いがすごかった。一度嗅いたら忘れられないものとなるだろう

1 中にまだ入っていたペットボトル
カフェオレが入っていたペットボトル
分別の時開けてみると衝撃が走った。



プシューと音がしたのだ。長時間じゅくせい(?)
されたようだった
炭酸水でなくてもずっと放置しておけば
炭酸水になることが分かった。

西舞鶴、中舞鶴のゴミ拾いをして2日とも舞鶴市の
ゴミ袋パンパンになるくらい集められたから
よかった。



〈市役所への電話〉④

今後の活動をグループ(デビル ビフォーアフター パークス)で話し合った。すると自分たちのグループ(デビル ビフォーアフター パークス)の活動目標は公園の整備だからゴミ拾いではない。和田クエでしかできないようなこと、活動をするだけでなく形として残るものを作りたいと考えたので中舞鶴にいるc58 113号機を掃除しようということになった。c58と中舞鶴駅跡は舞鶴市が管理していると思ったので市役所に電話をかけてみた。

すると後日話を聞いてもらえることになった

〈鉄道記念館さんと築いた関係〉⑤

汽車を掃除する方針で行くこととなったが汽車の掃除の仕方がわからない。もちろんネットで調べたがもしやり方が違ったり、適していなかった場合だったりして汽車を痛めてしまっただけではいけないそこで実際に汽車を扱い管理している。九州鉄道記念館さんと少し前にもお世話になった。京都鉄道博物館さんに掃除の仕方とコツを教えていただいた。

〈久しぶりの市役所〉⑥

汽車の掃除の仕方とこれから汽車をどうしていきたいか聞いてもらった
また汽車の詳しい情報を教えてもらった。

〈公園使用届の提出〉⑦

記者は勝手に掃除できない汽車の掃除には
公園使用届という大事な書類が必要だ。
公園使用届を書くことは人生でも1回2回くらい
なのではないだろうか貴重な経験となったと思う。



〈汽車の清掃〉⑧

公園使用届を提出したあと公園使用の許可が下りて、教えてもらった方法
(水と雑巾を使って拭く)ですると煤や埃鳥のフンを結構落とせた。雑巾もあつと
いう間に黒くなり 水で拭くことで褪せた色だった黒が深みのある黒になった。

手が届かなくてできなかったところや時間が足りずできなかったところはたく
さんあるけどすこしでも c58 を綺麗にできたのならよかったと思う。

活動を通して、ゴミ拾いから始まり最終目標汽車掃除までできた。ゴミ拾いを
した時、拾っただけで終わったけど今後地域の活動があったときはゴミを増や
さないためどうやってゴミをポイ捨てできないようにするか考えられたらいいな
と思う。

市役所の方や鉄道記念館の方、鉄道博物館の方々にも手伝っていただき
て、電話では汽車の清掃以外にも動輪で気になっていたことを教えてもらったり
飾っている車両のことを話したりしてまた記念館、博物館に行きたいなと思っ
た公園使用届を書いたり、市長さんに提出をしてなかなかできないことをでき
たからいつかする活動でも和田クエで学んだことを活かしていけたらいいなと
思った。 終



和田クエスト活動

僕達は和田クエストの時間を通してクラブチーム設立を考えた。以下は行ってきたことである。

・きっかけ

きっかけは平日の部活動練習時間が少ないなと感じたことだった。目的は主に二つあった。初めは総体で勝つことを軸としてやってきたが、クラブチーム設立が間に合わず、目的を変更することにした。

変更後はバスケットを通して様々な人との関わりを持ち、社会的交流をするというのを目的として進めていった。

・流れ

設立すると決意する



いくつかの問題点



設立準備完了！

・上記の様に設立に際し、問題点を乗り越えて活動を行ってきた。問題点としては主に、指導者、コーチ、責任者などの人的問題と怪我時の対処、保険の有無などの安全面での問題があった。人的問題の解決策として思いついたのは、社会人バスケットボールのチームの練習にお邪魔して募集を募ることと、学習発表祭を利用し宣伝することだった。その結果、社会人バスケットの西村さんという方がコーチをしてくださることとなった。

安全面の問題は、実際に経験がある和田中学校の元校長先生の方にお話を聞き、対処法を教わることで解決することができた

まとめ

・この様に設立にあたって、問題点があったが自分たちで乗り越えることで設立準備を完了することができたためいい経験になったと思う。

クラブチーム設立に際して

目的

- 1 平日は練習時間が少ないため練習時間を確保する。
- 2 視野を広げ、スポーツを通して様々な人と交流するため

日時

毎週水曜日 午後5時～6時45分まで
＊活動終了後すぐに体育館を出る

活動場所

舞鶴市立和田中学校体育館

目指すチーム像

- ・ 上下関係を大切にしたい雰囲気
- ・ 褒め合える関係性
- ・ 反応、返答を重視し、挨拶などの基本的な礼儀を身につけるため

その他

持ち物…タオル、水分、着替え など
参加費用 …なし

保険…強制加入ではない

年齢…U15

活動予定期間…2024年3月末まで

チーム名 「舞鶴籠球部」

クラブチームに参加できる方は「はい」に丸をしてください。参加できない方は「いいえ」に丸をしてください。

年 名前

(はい、いいえ)

和田クエ活動 by パイモン

・目的

旬のフルーツを使ったゼリーを使ってゼリーを作り和田中の先生や生徒に配る。

・活動内容

まず初めに何のフルーツでゼリーを作るかを話し合った。その時は夏で多くの人気のフルーツが旬だった。その中でスイカを選んだ。スイカは苗を買い、自分たちで育てることにした。荒川種苗で、苗、肥料や土、植木鉢などを買い、植え方、育て方、注意する点などについても教えていただいた。

7月10日に苗を植えた。植えた1週間後、苗が倒れており、枯れたと思っていた。

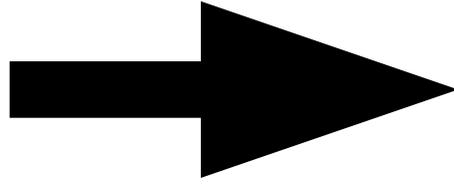


しかし、重さで倒れていただけで枯れていたわけではないため大丈夫だった。

この時はもうすぐ夏休みで、夏休み中の水やりをどうするか、という課題が出てきた。話し合っ、「後輩に部活ついでにやってもらおう」、「グループの誰かが学校に来て水やりをする」などの案が出ましたが、最終的に加納君の家で育てることにした。

植えてから2、3週間後になると葉っぱが増え、茎も伸びた。そのため支柱を立てて支えた。また、花を受粉させた。

4週間後には実ができ、日に日に大きくなった。



一ヶ月後には花や葉が増え順調だと思っていた。
しかし、だんだん花や葉の色が悪くなり、実も大きくならなかった。
その原因は知らない茎や葉を切っていなかったことだった。
知らないところを切らなかったため、実に十分な栄養がいかず、他の葉などにいってしまった。

スイカは失敗！

スイカは失敗に終わったため次は何のフルーツでゼリーを作るか話し合った。
この時は10月だったため、旬のフルーツは変わっていた。話し合っキウイでゼリーを作ることになった。
材料を買い、調理をしたがうまく固まらず、失敗した。

・まとめ

僕たちのグループは失敗し、目的を達成できなかった。なぜ失敗したのか、どうすれば成功できたのかなどを話し合い失敗の原因は調べ不足だと考えた。その理由はスイカを育てる中でやらないといけないことを調べていなかったことだ。このことから実際に物事をする時には事前に調べる中で細かいところまで調べる大切だと思った。

和田クエスト

DBAPs

略: デビルビョーアフターパークs

<目的>

公園の利用者を増加させる

<活動内容>

公園を綺麗にするため主に公園のゴミ拾いを始めました。エリアを絞り、

舞鶴を中心に進めました。まず和田の視察に行き、

後日、和田でゴミ拾いを行いました。

そして、中舞鶴、西舞鶴(駅、田辺城、商店街)に行きゴミ拾いし、

ゴミの分別をしました。

さらに汽車公園で掃除をするために後日市役所に訪問し許可をもらいに行き、後日、掃除を行いました。

・和田の視察

まず和田の視察に行きました。行くとゴミがたくさんあり、

木などが倒れていました。



・中舞鶴、西舞鶴でゴミ拾い

ゴミが多く拾うのが大変でした。ほとんどがお菓子のゴミでした。

西舞鶴の各場所でもゴミが多かったです。

・ゴミの分別



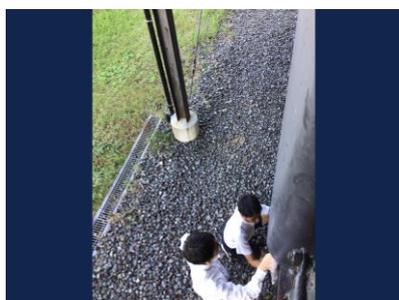
・市役所訪問

まず僕たちがしたい事を伝えて、
汽車公園で雑巾を使うため水道を
使う時間がかなりあります。
だから許可をもらいに行きました



汽車公園の掃除

掃除を頑張りました。とてもゴミが
取れました。
よかった～



和田クエスト

Love sports 舞鶴のスポーツ人口を増やしたい



←実際に市役所に行った時の写真

この Love sports では舞鶴のスポーツ人口を増やす活動を行なった。この活動を行うことによって舞鶴の平均寿命伸ばしたりスポーツが盛んになったりすると思ひ活動を行なった。まず僕は舞鶴市役所のスポーツ振興課が舞鶴のスポーツの取り組みを行っていることを知り調べることにした。そこにはスポーツ教室などが行われていると書かれてあった。僕の行いたかったスポーツが苦手な人やスポーツをした事がない人などのどんな人にもおこなってもらいたかった僕の取り組みにはベストだったため実際に舞鶴市役所に訪れることにした。訪れる際には主に三つの質問をした。1つ目はスポーツ振興課が行なっている取り組みについて、2つ目はスポーツ振興課と一緒に取り組むことは可能なのか、3つ目はスポーツ振興課の情報発信方法について質問した。そして聞いた結果1つ目の質問は誰でも行う事ができるスポーツや運動体験、動作(投げ方、走り方)教室などを行なっている。2つ目の質問は1人だけでは難しい、全校生徒の納得があればいけるかもとのことだった。3つ目の質問は主に舞鶴の雑誌やインターネットなどで行っていると聞いた。この交流を通して、取り組むことは難しいとわかった。だからこれからは、探求を続けた。先生や周りの人の話を聞いて激しいスポーツを行える場所がない事がわかった。そこで仲間出る地域の公園を見ていく中でボールが使えなかったりする公園があったりした。もう少し時間があれば公園のルールを変えたりスポーツを行える環境を作ったりしたかった。もし僕と同じようにスポーツに関する活動を行う人がいれば“〇〇のために”ということを考えて活動してほしいと思った。僕はこの活動を通して舞鶴のスポーツの現状や舞鶴の行っている活動などいろんなことが知れた。また、礼儀や行動力などいろいろな力がついた。だからこの活動はこれから生きる上でも意味のある活動になった。

